

黒色1因子と Dudeney 集合

小林みどり, 武藤伸明, 喜安善市, 中村義作

Black 1-factors and Dudeney sets

Midori KOBAYASHI, Nobuaki MUTO, KIYASU-Zen'iti and Gisaku NAKAMURA

Dedicated to Professor M.Otsubo on the occasion of his retirement.

ABSTRACT

A set of Hamilton cycles in the complete graph K_n is called a [double] Dudeney set, if every path of length two lies on exactly one [two] of the cycles. It has been conjectured that there is a Dudeney set for every complete graph. It is known that there exists a Dudeney set of K_n when n is even, but it is still unsettled when n is odd.

In this paper, we define a black 1-factor and we show that if there exists a black 1-factor of K_n , we can construct a Dudeney set of K_{n+1} . Furthermore, we extend it to a double Dudeney set.

1. はじめに

$K_n = (V_n, E_n)$ を n 個の頂点をもつ完全グラフとする. K_n の任意の 2-path (長さ 2 の path) をちょうど 1 回ずつ含む Hamilton cycle の集合を K_n の Dudeney 集合という. すべての K_n に対して Dudeney 集合を構成する問題を Dudeney の円卓問題と呼んでいる.

n が偶数のときの Dudeney 集合は既に構成されているが [3], n が奇数のときの Dudeney 集合については, 現在までに構成されているのは, わずかに $n = p + 2$ (p は奇素数で 2 が原始根) のときと [1], $n = 2^e + 1$ (e は自然数) のとき [4] のみである.

この論文では, p が素数のとき, K_{p+1} の黒色1因子を定義し, それを用いて K_{p+2} の Dudeney 集合が構成できることを示す. 従って, 黒色1因子を構成することが K_{p+2} の場合の Dudeney の円卓問題を解決するための重要な鍵となるが, コンピュータで調べた結果, すべての素数に対して黒色1因子が存在するとは限らないことが分かった. 黒色1因子が存在するための素数 p の条件や, 存在するときのその構成法については未解決である. さらに, 二重Dudeney 集合を構成するため, 黒色1因子を拡張する.

2. 記号と準備

$n = p + 1, r = (p - 1)/2$ とおく. ここで p は奇素数 ≥ 5 とする. K_n の頂点集合を

$$V_n = \{\infty\} \cup \{0, 1, 2, \dots, p-1\}$$

とおき, 1 因子 F_i ($0 \leq i \leq p-1$) を

$$F_i = \{\{\infty, i\}\} \cup \{\{a, b\} \in E_n \mid a, b \neq \infty, a + b \equiv 2i \pmod{p}\}$$

と定義する.

頂点の置換を $\sigma = (\infty)(0 \ 1 \ 2 \ 3 \ \dots \ p-1)$ と定義し, $\Sigma = \langle \sigma \rangle$ とおく. cycle や circuit の集合 C に対して, $\Sigma C = \{\sigma^t C \mid 0 \leq t \leq p-1, C \in C\}$ と定める.

$\{1, 2, 3, \dots, p-1\}$ の部分集合 H が, $H \cup (-H) = \{1, 2, 3, \dots, p-1\}$, $|H| = (p-1)/2$ を満たすとき, H は $\text{mod } p$ の half-set であるという. よく知られているように, $\text{mod } p$ の任意の half-set H に対して, $\Sigma\{F_0 \cup F_i \mid i \in H\}$ は K_n の Dudeney 集合である.

任意の枝 $\{a, b\} \in K_n$ に対して, 枝の長さ $d(a, b)$ を次のように定義する.

$$d(a, b) = \begin{cases} \min\{p - |b - a|, |b - a|\} & (a, b \neq \infty \text{ のとき}) \\ \infty & (\text{その他のとき}) \end{cases}$$

また, 枝の色 $c(a, b)$ を次のように定義する.

$$c(a, b) = i \quad (\{a, b\} \in F_i \text{ のとき } (0 \leq i \leq p-1))$$

色 i, j ($0 \leq i \leq p-1$) が $i = j$ または $i + j = p$ を満たすとき, i と j は同値であるといい $i \sim j$ と書く.

注1. 枝の長さは $\infty, 1, 2, \dots, r$ の $r+1$ 種類, 枝の色は $0, 1, 2, \dots, p-1$ の p 種類, 同値でない色は $0, 1$ (または -1), 2 (または -2), \dots, r (または $-r$) の $r+1$ 種類ある.

注2. F_i ($0 \leq i \leq p-1$) は, 同色の枝からなる 1 因子である. 特に色 0 は白とし, F_0 を白色 1 因子と呼ぶことがある.

$n' = n + 1 = p + 2$ とおき, $K_{n'} = (V_{n'}, E_{n'})$, $V_{n'} = V_n \cup \{\alpha\}$ とする. σ を $V_{n'}$ の置換 $\sigma = (\infty)(\alpha)(0 \ 1 \ 2 \ 3 \ \dots \ p-1)$ に拡張しておく.

3. 黒色 1 因子

3.1 定義 K_n の 1 因子 B は, 次の条件を満たすとき黒色 1 因子と呼ばれる.

- (1) $F_0 \cup B$ は Hamilton cycle である.
- (2) B は全ての長さ ($\infty, 1, 2, \dots, r$) を持つ.
- (3) B は 0 以外の全ての同値でない色を持つ.

B に含まれる枝を $e_1 = \{x_1, y_1\}, e_2 = \{x_2, y_2\}, \dots, e_r = \{x_r, y_r\}, e_{r+1} = \{x_{r+1}, y_{r+1}\}$ とし, それらの色を順に $i_1, i_2, \dots, i_r, i_{r+1}$ とする. 枝は $r+1$ 本あるが, 色は r 色であるから, 同じ色の枝が 2 本ある. その枝を e_r, e_{r+1} としても一般性を失わない. すなわち, $i_r \sim i_{r+1}$ とする.

$H = \{i_1, i_2, \dots, i_r\}$ と決める. H は half-set であるから,

$$C = \{F_0 \cup F_{i_s} \mid 1 \leq s \leq r\}$$

とおくとき, ΣC は K_n の Dudeney 集合となる.

B の各枝に α を挿入してできる $K_{n'}$ の道 (path) の集合を B^α と書く. すなわち,

$$B^\alpha = \{(x_s, \alpha, y_s) \mid 1 \leq s \leq r+1\}$$

とする. ここで, $(x_s, \alpha, y_s) = (y_s, \alpha, x_s)$ とみなす. さらに

$$B^\alpha = F_0 \cup B^\alpha$$

とおく. B^α は $K_{n'}$ の circuit である.

3.2 命題 $\Sigma(C \cup \{B^\alpha\})$ は $K_{n'}$ の任意の 2-path をちょうど 1 回ずつ含む.

証明 $K_{n'}$ の 2-path を次の 8 種類に分ける. ここで, $a, b, c \neq \infty, \alpha$ とする:

(i) (a, b, c) , (ii) (a, ∞, b) , (iii) (∞, a, b) , (iv) (a, α, b) , (v) (α, a, b) , (vi) (α, ∞, a) , (vii) (α, a, ∞) , (viii) (∞, α, a) .

このうち, (i), (ii), (iii) は K_n の 2-path でもあるので, ΣC に含まれている. 以下, (iv), (v), (vi), (vii), (viii) の各枝が $\Sigma\{B^\alpha\}$ に含まれることを示す.

(iv) B は全ての長さを持つことより, $\Sigma B = E_n$. よって, 2-path (a, α, b) は $\Sigma\{B^\alpha\}$ に含まれる.

(v) $\{a, b\}$ に σ を何回か作用させて F_0 に含まれるようにすることができる (F_0 は全ての長さを持つことより). よって $\{a, b\} \in F_0$ と仮定して一般性を失わない. (α, a, b) も (α, b, a) も B^α に属する.

(vi), (vii) 同様に, $a = 0$ として一般性を失わない. そのとき 2-path $(\alpha, \infty, 0)$, $(\alpha, 0, \infty)$ は B^α に属する.

(viii) 同様に, $\sigma^t\{\infty, a\} = \{\infty, b\} \in B$ とできる. そのとき 2-path (∞, α, b) は B^α に属する. \square

$1 \leq s \leq r+1$ について, 枝 $e_s = \{x_s, y_s\}$ は F_{i_s} に属する. そこで, $1 \leq s \leq r$ について

$$F'_{i_s} = F_{i_s} \setminus \{\{x_s, y_s\}\} \cup \{\{x_s, \alpha\}, \{\alpha, y_s\}\}$$

と定義する. また

$$B' = \{\{x_1, y_1\}, \dots, \{x_r, y_r\}, \{x_{r+1}, \alpha\}, \{\alpha, y_{r+1}\}\}$$

とおく.

C が cycle または circuit の集合のとき, C に含まれる 2-path 全部からなる集合を $\pi(C)$ と書く.

3.3 命題 $\pi(\{F_0 \cup F'_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{F_0 \cup B'\}) = \pi(\{F_0 \cup F_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{F_0 \cup B^\alpha\})$.

証明 $(\cup_{1 \leq i \leq r} F_i) \cup B^\alpha$ と $(\cup_{1 \leq i \leq r} F'_i) \cup B'$ に属する枝の集合が等しいことより言える.

3.4 定理 $\mathcal{H} = \Sigma(\{F_0 \cup F'_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{F_0 \cup B'\})$ は $K_{n'}$ の Dudeney 集合である.

証明 命題 3.2, 3.3 より, \mathcal{H} は $K_{n'}$ の任意の 2-path をちょうど 1 回ずつ含む. また, \mathcal{H} の各要素が Hamilton cycle であることは明らかである. 故に \mathcal{H} は $K_{n'}$ の Dudeney 集合である. \square

以上で, K_n に黒色 1 因子が存在すれば $K_{n'}$ の Dudeney 集合が構成されることが示された. 各素数 p に対し, 黒色 1 因子が存在するかどうかをコンピュータにより調べた結果を次に示す. 黒色 1 因子が存在すれば, それを B とおくと, iB ($1 \leq i \leq p-1$) は全て異なる黒色 1 因子である. 従って, $\{\infty, 1\}$ の枝を持つ黒色 1 因子に限定して探索し, 総数は $p-1$ 倍することにより求めた.

$p=5$ なし

$p=7$ 総数 1×6 個

0-3,	length = 3,	colour = -2
4-2,	length = 2,	colour = 3
5-6,	length = 1,	colour = 2
1- ∞ ,	length = ∞ ,	colour = 1

$p=11$ なし

$p=13$ なし

$p=17$ 総数 21×16 個

0-3,	length = 3,	colour = -7
14-13,	length = 1,	colour = 5
4-9,	length = 5,	colour = -2
8-15,	length = 7,	colour = 3
2-6,	length = 4,	colour = 4
11-5,	length = 6,	colour = 8
12-10,	length = 2,	colour = -6
7-16,	length = 8,	colour = 3
1- ∞ ,	length = ∞ ,	colour = 1

$p=19$ なし

$p=23$ 総数 538×22 個

0 - 3,	length= 3,	colour = -10
20 - 8,	length= 11,	colour = -9
15 - 9,	length= 6,	colour = -11
14 - 18,	length= 4,	colour = -7
5 - 10,	length= 5,	colour = -4
13 - 6,	length= 7,	colour = -2
17 - 16,	length= 1,	colour = 5
7 - 21,	length= 9,	colour = -9
2 - 4,	length= 2,	colour = 3
19 - 11,	length= 8,	colour = -8
12 - 22,	length= 10,	colour = -6
1 - ∞,	length = ∞,	colour = 1

$p = 29$ なし

$p = 31$ 総数不明 (計算時間が膨大のため)

0 - 3,	length = 3,	colour = -14
28 - 11,	length = 14,	colour = 4
20 - 24,	length = 4,	colour = -9
7 - 12,	length = 5,	colour = -6
19 - 27,	length = 8,	colour = -8
4 - 2,	length = 2,	colour = 3
29 - 9,	length = 11,	colour = -12
22 - 10,	length = 12,	colour = -15
21 - 14,	length = 7,	colour = 2
17 - 23,	length = 6,	colour = -11
8 - 18,	length = 10,	colour = 13
13 - 26,	length = 13,	colour = 4
5 - 6,	length = 1,	colour = -10
25 - 16,	length = 9,	colour = 5
15 - 30,	length = 15,	colour = 7
1 - ∞,	length = ∞,	colour = 1

例 $p = 7, n = p + 1 = 8, n' = p + 2 = 9$ のとき, 上の結果より,

$$B = \{\{\infty, 1\}, \{5, 6\}, \{2, 4\}, \{0, 3\}\}$$

は黒色1因子である. $H = \{1, 2, 3\}$ と決める.

$$B^\alpha = \{(\infty, \alpha, 1), (5, \alpha, 6), (2, \alpha, 4), (0, \alpha, 3)\}$$

であり,

$$\begin{aligned} F'_1 &= \{\{\infty, \alpha\}, \{\alpha, 1\}, \{0, 2\}, \{6, 3\}, \{5, 4\}\} \\ F'_2 &= \{\{\infty, 2\}, \{1, 3\}, \{0, 4\}, \{5, \alpha\}, \{\alpha, 6\}\} \\ F'_3 &= \{\{\infty, 3\}, \{2, \alpha\}, \{\alpha, 4\}, \{1, 5\}, \{0, 6\}\} \\ B' &= \{\{\infty, 1\}, \{5, 6\}, \{2, 4\}, \{0, \alpha\}, \{\alpha, 3\}\}. \end{aligned}$$

従って, K_9 の Dudeney 集合 \mathcal{H} が得られる.

$$\begin{aligned} \mathcal{H} = \Sigma \{ &(\infty, 0, 2, 5, 4, 3, 6, 1, \alpha), (\infty, 0, 4, 3, 1, 6, \alpha, 5, 2), \\ &(\infty, 0, 6, 1, 5, 2, \alpha, 4, 3), (\infty, 0, \alpha, 3, 4, 2, 5, 6, 1) \} \end{aligned}$$

4. 黒色 1 因子の拡張

本節以降は, $n = p + 1$ における p は素数であるという条件をはずし, p は任意の奇数 ≥ 5 とする.

G_i ($0 \leq i \leq r$) は K_n の 1 因子であり, $D = \{G_0 \cup G_i \mid 1 \leq i \leq r\}$ とおくとき, ΣD が K_n の Dudeney 集合であるとする. ここで, G_0 は全ての長さを持つ 1 因子であるとする.

4.1 定義 K_n の 1 因子 B は, 次の条件を満たすとき, D に関して黒色 1 因子であるという.

- (1) $G_0 \cup B$ は Hamilton cycle である.
- (2) B は全ての長さを持つ.
- (3) $|B \cap G_i| \geq 1$ ($1 \leq i \leq r$).

B の各枝に α を挿入してできる $K_{n'}$ の道の集合を B^α と書き, $B^\alpha = G_0 \cup B^\alpha$ とおく. B^α は $K_{n'}$ の circuit である.

4.2 命題 $\Sigma(D \cup \{B^\alpha\})$ は $K_{n'}$ の任意の 2-path をちょうど 1 回ずつ含む.

$e_i = \{x_i, y_i\} \in B \cap G_i$ ($1 \leq i \leq r$) とおき, §3 と同様に,

$$\begin{aligned} G'_i &= G_i \setminus \{\{x_i, y_i\}\} \cup \{\{x_i, \alpha\}, \{\alpha, y_i\}\} \quad (1 \leq i \leq r), \\ B' &= \{\{x_1, y_1\}, \dots, \{x_r, y_r\}, \{x_{r+1}, \alpha\}, \{\alpha, y_{r+1}\}\} \end{aligned}$$

と定義すると次が成り立つ.

4.3 命題 $\pi(\{G_0 \cup G'_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{G_0 \cup B'\}) = \pi(\{G_0 \cup G_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{G_0 \cup B^\alpha\})$.

4.4 定理 $\mathcal{H} = \Sigma(\{G_0 \cup G'_i \mid 1 \leq i \leq r\} \cup \{G_0 \cup B'\})$ は $K_{n'}$ の Dudeney 集合である.

5. 二重 Dudeney 集合

K_n の任意の 2-path をちょうど 2 回ずつ含む Hamilton cycle の集合を, K_n の 二重 Dudeney 集合という.

Dudeney 集合が存在すれば二重 Dudeney 集合も存在する (2 倍すればよい) ので, 偶数次の二重 Dudeney 集合の構成問題は解決済みである. 奇数次の二重 Dudeney 集合については, p が素数のとき K_{p+2} の二重 Dudeney 集合が構成されている [2]. この節では, [2] のアイデアを一般の形に定式化する. これは, 黒色 1 因子の拡張であり, 一般の奇数次二重 Dudeney 集合の構成に役立つと思われる.

G_i ($0 \leq i \leq p-1$) を K_n の 1 因子とする. $D_2 = \{G_0 \cup G_i \mid 1 \leq i \leq p-1\}$ とおくと, ΣD_2 が K_n の二重 Dudeney 集合であるとする. ここで, G_0 は全ての長さを持つ 1 因子であるとする.

5.1 定義 B_1, B_2 は K_n の 1 因子とする. $\{B_1, B_2\}$ が次の条件を満たすとき, D_2 に関して黒色であるという.

- (1) $G_0 \cup B_1, G_0 \cup B_2$ は Hamilton cycle である.
- (2) B_j は全ての長さを持つ. ($j = 1, 2$)
- (3) $\{x_{r+1}, y_{r+1}\} \in B_1, \{x'_{r+1}, y'_{r+1}\} \in B_2, e_i \in G_i$ ($1 \leq i \leq p-1$) が存在して,

$$(B_1 \setminus \{\{x_{r+1}, y_{r+1}\}\}) \cup (B_2 \setminus \{\{x'_{r+1}, y'_{r+1}\}\}) = \{e_1, \dots, e_{p-1}\}$$

が成り立つ. $e_i = e_j$ の場合, 上の集合及び等式は重複も込めて考える.

B_1, B_2 の各枝に α を挿入してできる $K_{n'}$ の道の集合を, それぞれ B_1^α, B_2^α と書き,

$$B_j^\alpha = G_0 \cup B_j^\alpha \quad (j = 1, 2)$$

とおく. B_j^α は $K_{n'}$ の circuit である.

5.2 命題 $\Sigma(D_2 \cup \{B_1^\alpha, B_2^\alpha\})$ は $K_{n'}$ の任意の 2-path をちょうど 2 回ずつ含む.

§3, 4 と同様に G'_i ($1 \leq i \leq p-1$), B'_j ($1 \leq j \leq 2$) を定義すると, 次が成り立つ.

5.3 定理

$$\mathcal{H} = \Sigma(\{G_0 \cup G'_i \mid 1 \leq i \leq p-1\} \cup \{G_0 \cup B'_1\} \cup \{G_0 \cup B'_2\})$$

は $K_{n'}$ の 二重 Dudeney 集合である.

謝辞

本論文の寄稿に際し, お茶の水女子大学名誉教授林田侃先生より, 有益なご指摘とご教示をいただきました. ここに, 深謝の意を表します.

参考文献

- [1] K.Heinrich, M.Kobayashi and G.Nakamura, Dudeney's Round Table Problem, *Annals of Discrete Math.* **92** (1991) 107-125.
- [2] K.Heinrich, M.Kobayashi and G.Nakamura, Exact Coverings of 2-paths by Hamilton cycles for K_{p+2} , preprint (1992).
- [3] M.Kobayashi, Kiyasu-Z. and G.Nakamura, A solution of Dudeney's round table problem for an even number of people, *J. Combinatorial Theory (A)* **62** (1993), 26-42.
- [4] G.Nakamura, Kiyasu-Z. and N.Ikeno, Solution of the round table problem for the case of $p^k + 1$ persons, *Commentarii Mathematici Universitatis Santi Pauli* **29** (1980) 7-20.